

「高知県橋梁会 平成 28 年度 第 2 回研修会」報告

高知県橋梁会理事 村田 敦

(一社)土木学会四国支部と高知県橋梁会の共催による平成 28 年度 第 2 回研修会が、2016 年 8 月 31 日（水）に、高知市本町にある高知会館の「飛鳥の間」で開催された。

研修会では、企業による新工法や新技術の紹介など 1 テーマ、高知県橋梁会西川理事による平成 28 年度見学会の報告、第一コンサルタンツの松本氏による熊本地震後の対応、愛媛大学大学院の森先生による熊本地震からの教訓など、合わせて 4 テーマについて講演を行った。

残暑厳しい中 65 名が参加し、参加者も含めて活発に質疑応答を行うなど、非常に有意義でかつ楽しく研修会を終えることができた。

■研修会（13：30～17：00）

研修会に先立ち、右城会長から開催の挨拶が行われた。本日の研修会の 4 題目の紹介があり、愛媛大学大学院の森先生が NHK の TV 番組「クローズアップ現代+」に出演されたこと、熊本地震及びイタリア地震の被災状況から耐震工事の有無により被災状況に大きな差が発生することなどの話があった。また、本日の研修会が参加された皆さんに有意義な成果をもたらすことを期待すると話があった。

（13:30～13:40）



右城会長による開会の挨拶

最初の講演は、SERID(セリッド)研究会事務局長の岡本正広氏から「土構造物（鉄道・道路盛土、堤防、ため池等）の耐震解析技術と耐震工法」と題し、東日本大震災における、ため池の被災例の破堤・決壊の主原因の解説と従来の耐震設計法では実際の崩壊が説明できない話から有効な各種ニューマーク D 法による解析事例を詳しく述べた。

また、実務的な土構造物の地震時変形予測手法と

して準静的 FEM による解析事例を説明され、土構造物の耐震対策工法としてジオシンセティック補強土擁壁（GPS 擁壁）の実際の施工例として鉄道盛土工事、波浪を受ける護岸構造物工事、道路盛土工事、公園における高盛土工事の紹介があった。

（13:40～14:30）



岡本正広氏による講演

2 番目の講演は、高知県橋梁会理事の西川準二氏から「平成 28 年度高知県橋梁会見学会報告」と題し、見学会の主旨、旅程、見どころについて報告があった。

今年の見学会は 7 月 8 日から 9 日にかけて一泊二日で参加者 18 名で開催された。1 日目は兵庫県の北近畿自動車道 八鹿日高道路青山橋上下部工事を見学した後、コウノトリの郷及び播磨屋米菓店の工場を見学し、城崎温泉に宿泊した。

上下部工事の見学では橋梁上部工のワーゲン施工を見学し、上部工内部の様子を見ることも出来、参加者からの質問にも説明してもらい非常に有意

義な見学であった。

2 日目は余部橋梁を見学し、鳥取に移動し鳥取砂丘と砂の美術館を堪能し、途中道の駅ポート赤崎を經由して帰路についた。

余部橋梁は平成 19 年 7 月に旧橋を現場見学会で訪れていたの、現在の新橋との違いを体感でき、また鳥取砂丘の砂の美術館では海外からの彫刻家の力作に魅せられた。

高知県橋梁会では日帰りとは 1 泊 2 日を交代で現場見学会を行う予定にしているの、皆さんの参加をお待ちしておりますと、述べた。(14:30~14:45)



西川準二氏による講演

3 番目の講演は、(株)第一コンサルタンツの松本洋一氏から「熊本地震発災後の対応と避難所運営」と題し、熊本地震後の避難所等の状況、高知県における避難所運営の取り組み、熊本地震の教訓と南海トラフ地震への備えについて紹介していただいた。

熊本地震発災後の避難所等の状況では避難者の推移の変化、各避難所の状況を運営方法や問題点などを詳しく述べた。

また、使用できない避難所があったことや、災害対策本部の被災状況、中山間の集落では地域コミュニティが機能したこと、災害廃棄物の仮置き場所の確保の問題の説明があった。

高知県における避難所の取り組みでは地域住民の方が主体となって開設・運営ができるマニュアル作成の取り組み例から、具体的なマニュアルの例、それを使用した訓練が行われ避難所での生活での問題を述べた。

熊本地震の教訓と南海トラフ地震への備えでは避難所運営における教訓と備え、応急期の対応に対する教訓と備えから「命をつなぐ」対策の推進と避

難者を減らす取り組みの提案をされた。

(14:45~15:20)



松本洋一氏による講演

4 番目の講演は、愛媛大学大学院の森伸一郎先生から「2016 年熊本地震の被害の特徴と学びたい教訓」と題し、地震の概要と地震被害、企業の被害と対策について紹介していただいた。

地震の発生から現地調査の期間、実態の話から始まり震度 7 の証拠の現地の被害の様子を PC 電信柱の折損、家屋倒壊、歩道縁石の押出・傾斜を多数の例にて報告された。

Google Earth を有効に利用した現地調査の資料で建物の被災状況把握の紹介があり、鉄筋コンクリート造等の建物では内部調査の様子の写真から被害の原因と対策について述べた。

また、宇土市役所庁舎の例を挙げ、地震前の耐震性評価と被災度調査の違いと大津町役場庁舎、第一畑中橋、阿蘇神社の被害と学びたい教訓を紹介され古くても維持管理がきちんとされていれば伝統建築は地震に強いとあった。

企業の被害と対策では BCP 作成状況のアンケートから作成がどれだけ重要であるかを述べた。

(15:25~16:55)



森伸一郎先生による講演

右城会長による乾杯の音頭で始められ、まだ暑さの残る中、ジョッキを片手に親睦を深めた。

研修会では、参加者が熱心に聴講するとともに、各テーマに対して活発な質疑応答がされた。



熱心に聴講する参加者



歓談のようす



村田理事による司会



歓談のようす

吉田副会長による閉会の挨拶では、本日の講演者や参加者への謝辞、次回研修会の開催予定、講演内容の募集などの報告をいただいた。(16:55~17:00)



吉田副会長による開会の挨拶

■懇親会 (17:30~19:30)

研修会終了後、会場をザ・クラウンパレス新阪急高知の屋上ビアガーデンに移して懇親会を開催した。参加者は講師の方々を含めて40名と盛況であった。



歓談のようす